

水害とたたかった人びと……川の流れをかえる工事

人々は、水害のない生活ができることを願いました。そして、そのために川の流れをかえて、洪水が起こりにくいようにする工事が行われました。これは、



大正・昭和の時代

洪水でこわされた富川堰の復旧工事

であり、会津坂下町の人々が安心してくらするようになったのは、ごくさいきんのことです。

この工事は、東北地方建設局（今の国土交通省北陸地方建設局阿賀川工事事務所）が中心となって進めました。会津坂下町の人々はこの仕事に参加し、いっしょうけんめい働きました。

このころは、今のような機械や道具がありませんでしたので、くわやつるはしで土をほり、ダイナマイトで岩をくだきました。掘り出した土はもっこで運んだり、トロッコに積んで運んだりしました。

【泡の巻捷水路※】阿賀川は、川西の近くで喜多方地区の真木を囲むように曲がっており、ここから洪水が起こっていました。この袋のようなところを150m堀りわって、川がまっすぐに流れるようにしました。



※捷水路：曲がった川を短く切り開いた水路